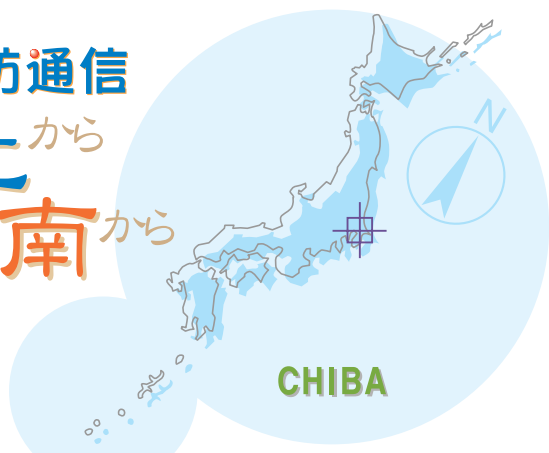


消防通信

北から
南から



ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ

市川市は、昭和9年11月3日に市制施行し、現在では、人口約47万1千人、面積56.39km²、江戸川を隔てて東京都と相対しており、都心から20km圏内の位置にあることから、東京のベッドタウン、文教、住宅都市として発展を続け、千葉県の玄関口として、都心部と県内各地域を結ぶ広域交通網（7路線16駅）が集中しており、流通の



日蓮宗大本山法華経寺（中山法華経寺）

大動脈となっています。

また、特産物でもあり、商標登録もされました梨の栽培が盛んで、県下でも有数な生産地です。縄文時代

中期以降の遺跡も多く残されており、ご存知の方も多、日蓮宗大本山法華経寺（中山法華経寺）には、国宝を含む多くの文化財が保存されています。

南部には、宮内庁が管理する皇室の『新浜鴨場』があり、皇太子様ご夫妻御成婚前のデートスポットとしても話題となりました。東京湾に面した海岸部には石油コンビナート等特別防災区域に大量石油貯蔵施設等が設置され、平成20年1月1日現在、特定事業所数は、第1種が5事業所、第2種が1事業所で石油等の貯蔵取扱量は、約28万kl、高压ガスの処理量は、630万7千Nm³で、京葉工業地帯の一翼を担っています。

健康都市いちかわ

平成16年11月に市政施行70周年記念式典で「健康都市いちかわ」を宣言しました。この健康都市とはWHO（世界保健機関）が提唱するもので、本年10月には、本市において



健康都市（市川市）マーク

千葉県 市川市消防局

千葉県 市川市消防局
消防局長 矢作 政雄



第3回健康都市連合国際大会が開催されます。

世界20カ国、3,000名程の国内外の関係者等が出席する予定となっており、大規模な大会が開催されることで、更なる健康都市を目指します。

広域化を見据えた組織体制

本市の消防体制は、職員498名、団員378名（女性消防団員8名含む）、婦人消防クラブ578名で、近年の複雑多様化する各種災害に対応するため、平成17年4月に機動化学隊を新設し、本年3月には大型プロアーク車を配備しました。また、救急車は、全隊高規格救急車で運用しています。これにより、災害対応能力の強化を図ることができ、消防広域化体制作りの礎として、広域災害時の初動体制の強化を図って参ります。

安全で快適な魅力あるまちをめざして

職員の各種災害対応能力向上のため、消防活動研究発表会と救命技術研修会を毎年開催しています。消防活動研究発表会では、同一テーマのもと、各出張所を含めた4消防署ごとに各署所保有の消防機材で災害対応について実技訓練を行い、終了後には、訓練の検証をし



消防活動研究発表会

て、災害現場での職員間の共通認識を深め、各種災害対応能力の向上を図っております。救命技術研修会では、近年の高度化する救急医療に対する認識やメディカルコントロール協議会においての統一事項の確認後に実技研修を行い、救急隊員の処置に対する認識を深めて、救急技術の向上に努めております。

本市消防局では消防職・団・婦人消防クラブ員を中心に防火思想の普及、高揚を図り、安全な社会の実現を願い「安全で快適な魅力あるまちをめざして」をテーマに職員一同、一丸となって業務に取り組んで参ります。